

「城原川ダム事業の検証に係る検討報告書
(素案)」に対する関係住民の意見聴取結果
【議事録】、【電子メール等で頂いたご意見】

平成 28年 5月

国土交通省 九州地方整備局

「城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する
関係住民からの意見を聴く場

日 時： 平成28年2月21日（日） 10時00分 ～ 11時40分
場 所： 神埼中央公園体育館（会議室）

○住民（1番）

おはようございます。

私、この体育館の北側にありますパインピア団地に住んでおります●●と申します。よろしくお願いたします。

私はですね、平成21年7月の洪水時に城原川にいました。洪水時に野越しから溢れた時なんですけど、あの時が確か時間雨量50～60ミリ程度の雨だったかと思うんですけど、初めて見た光景で家より高いところに川の水が流れていまして、堤防が崩れたらどうしようという思いで、すぐに家に帰りまして家族を、あの時は自主避難でしたので避難をするように呼びかけました。避難をさせる途中にですね、上流の野越しから水が溢れて、この溢れた水が家の中に入ってくるかもしれないと思ひまして、私も避難をしようと思っていたんですけど、周りの状況を見ておきたかったし、ただ一つ言えるのは恐ろしかったです。川の水が何と言ったら良いですかね夢に出てきました。ゴーっという音。恐ろしかったです。普段は城原川の水位ってほとんど水位がないんですよ。でも、あそこまで水位が上がるという天井川の恐ろしさを目の当たりに致しまして、それでゆくゆく調べていきまして私の団地の住民の方と相談いたしまして、相談というか私が怖かったという話をしまして、団地の方で防災組織を住民だけで組織ができあがりまして、それでまた城原川の事を色んな事を調べていったら、この辺で雨が降ってなくても脊振に雨が降った場合、その水が全部流れてくるんですよ。伊福とかあの辺に降った雨が。この辺が降ってないから大丈夫だという方が非常に多いと思うんですよ。私はこういう怖い経験をしたので、色んな事勉強して住民の方に恐ろしさという、当然景観も大事です。大事ですけど今は人命、財産を守る方が大事かと思ひます。

去年、鬼怒川の水害もありました。誰も皆さん被害が起きるっていう自然災害の恐ろしさ、地震なんかもそうですよ。絶対うちは大丈夫と思われる方が多いので、やっぱりそれを防いでもらう治水対策をきちっとやって頂いて、安心、安全の暮らしを私はしたいし、今これだけ異常気象なんで先ほど言いました50～60ミリの時間雨量の雨、あれがもし100ミリの雨だったらどうなんでしょうか。今のこの時間雨量100ミリって、当たり前のように降っています。当たり前と言ったらおかしいですけど、よく聞きます。時間雨量100ミリって。そんな雨がもし脊振に降ったら大変な事になると思ひますので、洪水時の水位を下げて溢れないようにしていただきたい。そのための治水対策を是非お願いしたいなと私は切なる願ひを込めます。

私は一人でも犠牲者を絶対にこの神埼、また日本から一人でも犠牲者を絶対出ちゃいけないんですよ。人の命は誰も補償できません。だから、それを守る対策を私はお願いしたいなと思います。

すいません。ありがとうございました。

○住民（2番）

みなさん、おはようございます。

私は城原川ダムの水没予定地区の住民として、今回の「城原川ダム事業の検証結果」に関わり、次の3つの観点から意見を述べさせていただきます。

まず一つ目は、私たち水没予定地区では45年前の1971年に治水・利水ダムとしての予備調査が始まり、2003年には国交省が治水に絞った案を提示、2009年には民主党の政権下で、ダム事業の凍結が表明され、城原川ダムも検証ダムの一つとなり、今日まで約40数年という半世紀近い歳月を通して翻弄され続けてきました。

その間、家屋の改修や道路整備などの生活環境も悪化し、他の地域と比較しても、一歩も二歩も振興が遅れ、将来の生活設計さえもままならない不安な状況のもとに、高齢化の時代を迎えることとなりました。

昨年、就任早々、山口県知事にも現地視察をしていただきました。

その意味からも、一日も早いダム建設を強く切望するものです。

二つ目は、当地区は、脊振山系から流れる城原川と倉谷川に挟まれ、周囲を険しい山あいの急傾斜地を間近に控え、豪雨時の土砂災害をはらんだ不安な危険区域でもあります。

ダム計画においては、過去には、水没予定地区の住民の間でも、賛否両論が交錯し、ギクシャクな感情のもつれもありましたが、その後は、「神埼町や千代田町そして佐賀市など、下流地区住民の生命・財産など、安心・安全な生活を守るためには、私たち水没予定地区の住民として、協力しなければならない」との強い思いから、住民の意思が一つにまとまり、ダム事業への理解と期待が高まっています。

その点からも、一日も早く、ダム建設を強く要望するものであります。

三つ目は、国の事業見直しの対象ダムとなっている城原川ダム計画をめぐる、国交省と流域自治体との間で検証が進められている「2回の準備会」と「3回の検討の場」、そして先日の「学識経験者からなる意見聴取」など、全てを傍聴させていただきました。

これまでに「河道改修と組み合わせた流水型ダムすなわち穴開け式ダム」と「その他の6つの代替案」との比較検証において、「安全面」「コスト」「実現性」「持続性」「柔軟性」などの項目毎での総合評価において、「ダム案が最も有利な治水案の方法である」との評価を示されたこと、並びに先日の学識経験者からの「周囲の生態系や景観にも配慮されてのダム建設を」との、建設への多くの方々からの理解が

示されたことは、私たち水没予定地区住民にとっても、胸をなで下ろす思いとなりました。

この点からも、ダムへの今後の早期実現を強く望むものであります。

もし、「河道掘削案」や「野越しや遊水地などを利用した他の代替案」が引き続き議論の対象ともなれば、私たちは、また何十年先まで翻弄され続けるかわかりません。

もう二度とこのような苦渋を味わいたくはありません。

今、やっと一部遅れを取り戻すべき地域振興対策案を図ってもらっていますが、40数年という歳月はあまりにも長すぎた感を憶えずにはられません。

どうか一日も早く、ダム計画への建設が実現されることを、水没予定地区住民一同、強く国、県、市へ切望するものです。

以上で、水没予定地区住民の私の意見とさせていただきます。

○住民（3番）

あの、遅れて入ってきて失礼をお許し下さい。

まず、1番と2番の方のお話聞いて、本当に私も田手川の川の横に住んでましたから、毎年大水で心配してました。命の危険を感じてました。40年以上待たされた脊振の方々の大変さをよく分かります。それで、胸にしっかり留めてお話しさせていただきます。

神崎のもんけん、神崎弁が出ます事をお許し下さい。お分かりにならないところもあるかも知れませんが、分からない時は仰って下さいませ。標準語に直します。

まず私は、国土交通省、当時建設省でしたけど、厚く厚くお礼申し上げます。それは、吉野ヶ里遺跡を国営公園として国際的な公園にしてくださった事です。文化庁のお金が足りなかったから建設省が国営公園にして下さいました。中国や台湾や韓国や日本の徐福会がイコモスに働きかけて、イコモスは世界遺産の準備をして下さっていると聞いております。日本の考古学者もそうでございます。そいぎ、1番の方の命、私は保健所長やったけん、本当に命なんです。そいぎですね、命が助かるかっていうと私が県議会議員を2期8年やらせていただきましたけん、知事に尋ねました。一般質問で。城原川ダムを造るぎ洪水が起きませんかって言ったら、起きないことはないと仰いました。それから脊振の方には40年以上待たせたけん、どうぞ人間は過ちを犯すものです。だから命さえ救われるようにすぎよかばってんですね、40年以上も待たせたという事は建設省はダムを決められた事を責めるんじゃないで、それはもうみんな分かってあげて40年以上待たせた方に補償をしてあげていただきたいのです。これが政治なんじゃないでしょうか。

そして、一番はじめに私が県議の時に案が出たのが、高さが100m、長さ500mでした。貯水型のダムでした。それが私ビックリして、あそこは富栄養化でダムの水が腐りますと申しました。佐賀県のダムの8割近くがアオコで腐れておりま

す。川下は癌が増えます。農業用水としても駄目ですと、そして吉野ヶ里からダム
の壁が見えて見たんなかと申しましたら、次の県議会で高さ25m減らして75m
にして、水のアオコが出らんごと穴をほがすと。穴あきダムになりました。京都大
学の●●教授とおっしゃいましたかね、穴あきダムの弊害を講話の中にずっと主張
しておられます。ですから私はパインピアというんですか、あそこの方々の命を守
るためにはダムができあがる前に集中豪雨が来るかもしれません。だから知恵を絞
ってですね、天井川だから危ないなら早く川工事をしていただきたい。ダムは東京
や大阪の、あんまりこれは大きく言われんばってん、ゼネコンの問題になってしま
います。川工事は地元の業者がお出来になります。そして、とにかく急いで命のあ
れに、すぐ出来るんじゃないでしょうか。お金が安いから城原川ダムと仰いますけ
ど、お金には換えられないものがあるんじゃないでしょうか。そして、私どもは洪
水が毎年出るからと言って田手川の川の脇ば、退け退け退けとって思い出の家が
無くなってしまったんです。それから城原川と田手川、千歳では千歳村、千代田町
では一緒になって、それから洪水で無くなったんです。あれが40何年でしたでし
ょうか。それで思い出の家は無くなりました。もう本当に悲しいです。だからこう
いう悲しみをダムの方々だって本当はそこにいて、先祖父祖伝来の土地にいて、そ
して補償してもらいんさったら、それが一番お幸せなんじゃないかと思うんですね。
それで治水のために城原川ダムと仰るなら私たちの千歳村、千代田の直鳥橋から下、
ずーとたくさんある所、復元していただきたいという思いが募っている方々が多い
事を申し述べます。そして脊振にはすごい文化が眠っております。佐賀県で初めて
できた松尾建設が赤字覚悟で造ってくださった。松尾組です当時。あの発電所は、
これまた近代建築の国宝級だと思うのです。政所もあり政治の中心です。神埼郡は
国のまほろばです。何とか命を救って地権者のお気持ちも満足なさる方法を考
えて下さいますように伏してお願いいたします。失礼します。

○住民（4番）

どうも先程お側の方が仰られましたパインピアに住んでおります●●でございま
す。パインピアの方ありがとうございます。ご心配頂いて。

実は私どもの提案としまして、水利用の問題という事で提案していました。最近
の皆さんご存じの鬼怒川の問題も含めてもそうですが、4、5年前の矢部川、それ
から山国川、あの耶馬溪、私も2、3度足を運んで見に行きました。今の水害とい
うのは上流部で起きるんですよね。矢部川の星野村でしたかね。星野村の町が浸か
った、水が道路を走ってるんですよね。中流部ですともう山が滑って自然ダムにな
って、それから県道の上を3mか4m、水がいつてるんですよね。本来であれば、
上流の方は水害に遭わないという観念があるのですが、山国川もそうですけど、
耶馬溪の青洞門が浸かったんですよね。で、その水が道路を横断して家屋だとか宅
地に入って大変な災害が発生したのは記憶に皆さんあると思いますけども、私はそ

れを考えてみますとこの一番危険な場所は城原川の中でも的(いくわ)地区ですね。あのせった所、21年の野越しの水が越えたときに、その後、見に行ったのですが、ちょうど的のところの川に1mぐらい橋が架かっているのです。それにやっぱり草木がひっかかってまして、ぎりぎりまで水が来たんだなと思いました。もし、先程うちの団地の彼が話したんですが、もし100ミリきつとたらですね、一番怖いのはあの的地区から水が上がって、県道を走ったらどうなるだろうかと、私いつも強く想像します。もしあつたら、あの仁比山神社辺りを全部流してしまうんじゃないかと、そのためには、水利用の問題も大事ですけど、やはり早急にダムを造って対策を早急にやっていただきたいと思います。それと私20年前にここに住んだんで、その前は来る時、来る前は城原川ダム建設ということで、どんどん進んでいたんですよね。その当時、尽言して途中で首長さんがダム反対という人がいらっしやっついてまして、これはおかしいことになったなと思って私は個人的に、うちの団地のものは●●君を含めて城原川ダム建設推進ということで当時署名をずいぶん集めて、その当時の国土交通省の方に提出して、佐賀新聞社の方も取りあげて頂いたんですけど、そういう運動もしました。やはり、この最近の雨の状態、エルニーニョ現象の状態から見ると大変な災害がこの神埼でも起きる可能性が十分踏まえてますので、我々、私たちじゃなく専門家の方がダムを造ってやらんといかんですよと、野越しの対策は駄目ですよと言ってるわけですから、そういうことは専門家の方に任せて素人の方があれがいい、これがいいとかじゃなくて、専門家の方に任せてやるという事は一番大事なんですよ。そういう面で色んな野越しを古い江戸時代の話みたいな事いう人がたくさんいるみたいですけど、そんな馬鹿なことを言ったら笑われますよ。はっきり言って。もし言われる方がおつたら。だから私たちは早急に来年度からでも、多分私も70になりましたんで、15年かかるといってましたので多分、ダムが出来ても死んでいると思いますけど、早急に我々孫のためにも、この建設の推進を国土交通省の方に益々お願いしたいと思います。

私のお話を終わります。以上です。

○住民（5番）

千代田町団地というところに40数年前引っ越してきました●●といます。

今4人発表していただいて、とても良いことを言っていただきました。私も大賛成です。

ただ、昔からよく水がくるパインピアのところに、「ああいうふうなところによく建設を認めたな」「どうして認めたんだろうか」という疑問があります。一般に入ってくる人は、何にも知らんで入ってくるからですね。

私、ここで4点、話をさせてもらおうと思いましたが、5分間でうまく話できるかどうか。ひとつは、ここの計画の一番大切なこと。二つ目は環境、生き物のこと。

まず一つ目ですが、ダムの場合1/150とか毎秒690立方メートルの流れと

言われますが、私たちが生きているのは大昔から千年万年、大昔からいろんなことがあっています。そういうものが来年・再来年、ダムが出来てからそういう災害が来たときに、ダムが壊れてしまうんじゃないか。壊れるようなダムだったら一番危ない。造らなくて、大昔からの洪水のようなものであればたいしたことのないものになります。

国土交通省が言っていることをいろいろインターネットで勉強すると、「ほう」ということばかりです。人間がいるところで災害があったら「災害」と。人間のいないところでの災害は「災害」といわないよ、というふうな感じのようです。

私は、とんでもないことが起きたときに絶対危なくないようなものにしてほしい。

こういうふうに考えましたのは、原子力発電所で将来のことを考えないで、とんでもないこと、例えば玄海原子力発電所の1号機が「脆性破壊」によりボーンと爆発する、その現象に、びっくりしたことは日清戦争、日露戦争の大昔に鉄砲や大砲を使ったときその場で爆発したそうです。どうしてかわからない。これは「脆性破壊」ですが、これが原発の方で数百度で運転されているとき、もし起きて、大変だということで水をかけたら、簡単に百度以下にしようとするから爆発します。

それと同じように絶対あぶないようなものは造らない。危なくないようにするということが大切と思っております。

二つ目ですが、生き物についてです。

生き物について、田手川で友人をずっと案内して回りました。

そのときに、今まですばらしい環境、大昔からのが無くなって、可動堰になっておりました。からかみ堰、それともう一つ上の堰です。

ようと見てこんだったんで、後で「あそこに魚道がある。」と魚道を見に行きました。りっぱな魚道が出来ておりましたが、「これを魚がカニがエビがいろんなものが大丈夫だろうか」と。「これは本当に生物に詳しい人、また地元の人いろんなことを知っている人の意見を聴いて造らないと」、出来て2年くらいのもんです。

今度穴あきダムの場合、魚道をつくると言っても問題で難しいと思います。

まず、魚が昇ってくるにしても、下ってくるにしても、「ここが魚道です」と標識がありません。私たちが標識をつくらうとするなら、大きな魚、小さな魚それぞれおられますから、小さな弱い魚がスーときて、「草が生えているほうと上るならどっちがよかね」と上って行って、途中で休み処もあり、上の方でサギなどに食べられないようなところも作ってやる。

計画を立てたら、どのような計画であるか地元の人に知らせ、「そうだね」となるようにしてほしいと思います。

三つ目は費用です。この建設費、まず示された金額で実際に造られたときは、その費用の2倍、3倍かかっていることが普通だそうです。そうするとここで安い安いといわれていますが、とても金がかかるようになったとき、急にやめるのか。今までののは、やめられたことがありません。

ですから、金額、これが一番安いといわれていますが、本当にそうなのか、造っ

てみたら2倍3倍のお金がかかったという現実があります。

その件についてももしっかり私たちに具体的な計画、そして検討の場で話されていたときに「維持費がとても安い」「たいしたことはない」といわれました。

維持費が安いということは、「土砂も流れてこない」、「コンクリートづくめになっているのか」と勝手に想像しています。今の魚道ではありませんが、生態系にとっても悪いと思います。

私はここでみんなに言いましたが、穴あきダムは理想的なものを造らなければいかん。理想的なものを造ろうとしたら、もっと上の方に、どんなものが来ても大丈夫なような所に造る、そしてこんなふうに造ると、地元の人などにいろいろ聞きながら、そこから考えて理想的なものを造るということが大切だと思います。

私は役所に言ってません。聞きに来られた方と「そうだね」というものを共有することが大事と思ってここに来ました。

ありがとうございました。

○住民（6番）

皆さんおはようございます。脊振から来ました●●と申します。こういう大型事業につきましては、住んでる地区によって様々な利害関係があって、多様な意見があるんだろうというふうに考えてますけども、よりよい合意形成に向けてですね、こういう議論が行われることを、もっと行うべきだというふうに思っております。

まず私たちというか●●では15案に近いんじゃないかということで、行政と話していると言われたんですけども、まずパインピアの人も言われたんですけども、平成21年7月の洪水によって、神陽団地が漏水起こって破堤寸前まで行った訳なんです。パインピアも危なかったと思うんですけども、その時の洪水流量が流量観測で大体毎秒450立方メートルぐらい、その時に野越しから出たのが毎秒20立方メートルぐらいというふうに国交省の方で言われてます。もともとですね、昭和24年の県の計画では、洪水流量は毎秒450立方メートル、そのうちの毎秒120立方メートルを野越しから逃すという計画になっていました。つまり、毎秒120立方メートル流す予定が毎秒20立方メートルぐらいしか流れなかったんですね。これは、なぜかという、昭和40年代の圃場整備に伴って野越しの高さを1m50cmぐらい上げて、受堤を外していったという経緯があります。その理由はどういうことか、いろいろ聞き取りをやったんですけども、人によって違いますので理由は分かりませんが、結果として野越しからの逃し水はなくなったということです。平成21年に毎秒120立方メートル流れたのであればですね、41cm計画高水位を超えた訳なんですけども、野越しから毎秒120立方メートル流れてれば計画高水位を下がっていたんだろうというふうに推定されるわけ。ですから、平成21年の洪水の経験をですね、もっと検証すべきであろうというふうに思っています。15案とか16案とか見ても、野越しを利用するといっているんですけど、

どの高さで計算されているのか、素案の中では見えません。もう一つはですね、5号野越しなんですけども、右岸側にある野越しです。これは横に受堤が今も現存してまして、その水は横落ち水路に落ちるようになってます。つまり、横落ち水路の横の道が低くなっているんですね。それは横落ち水路に落とすようになっているんです。ここは城原川最大の受益面積318ヘクタールの用水路なんです。そこに落とすとして農業用水として利用するようになっているんですね。それを周囲堤で囲ってますよね。何で囲む必要があるんでしょうか。こういう案が、本当に野越しというのはどういう機能を持ってどこに流れていくのかということを知られてないんじゃないかなと思ってます。パイプピアの所の上に2箇所野越しがあります。あの野越しは2箇所からこういうふうに受堤があって、パイプピアの東に空堀があります。そこに流すようになっているんですね。この前も県の方と県会議員の方と一緒に見に行ったんですけども、そこにきちんと落とすようになっている。その受堤が外されてるんですね。パイプピアの東側の用水路に行く道が切られている。ですから、そういうことをもう少しきちんと調べて、計画を国交省の方にはしていただきたい。については、現地で、その確認をしていただきたいというのは再三申し上げているんですけど、まだ来られていません。それと毎秒540立方メートルについては過大であるということは素案の中の意見書P6-12に15番に水源連の代表の人が細かい計算をしてだしている。それに対する反論らしい反論は私はないと思っている。それと、急傾斜地の話、水没地で出ましたけども、900箇所くらい脊振の方で崩壊しています。そのうち、認可されたのが800箇所くらいだと思います。山の方ではですね、そういう危険性があるんですけども、工事の対象は5軒家が繋がっていないとしてくれませんか。4軒以下だとしてくれないんですね。避難しなさいと。それが現状なんです。ダムは下流のためでしょうけども、下流の人はもっと上流の事をきちんと認識していただきたいというふうに思っています。15案の中で一つ無いのがですね、昭和28年には道路の舗装ってされてないんです。今、全部舗装されてまして、しかも側溝が入ってますね。山側からの水が、急激に川の方に入ってきます。つまり、あつという間に川が溢れるんですね。ですから、山側の道路側溝の中の溜枡を雨水枡に変える必要があるということです。これが今、非常に洪水が急激に膨らんできた原因の一つでもあるわけなんです。ちなみに、玉島川だと3日掛かって水が溢れて、3日掛かって引いていった。それであつという間に水が来るようになった。これは道路の問題が影響あるということも、是非九地整の中では検討していただきたいと思っています。以上です。

○住民（7番）

失礼します。私は素案のなかで書かれておりました新村ですね。神埼橋から南方に1kmくらい新村という部落がありますけどそのほとんど近くの先ほど脊振の方が冒頭報告された神陽団地です。神陽団地では平成21年、22年の時にいろいろ

危険性を問われましたけど、今、何人かの方が報告されたなかです。一番危険な目があったところです。というふうに私は認識しております。そういうことで先ほど6名の方が報告された前に国土交通省から素案についての詳細な具体的な報告いただきました。私は全く河川とか氾濫防止のためのダム建設とかいろんなことについては全く素人です。素人ながらの提案というか意見要望を今から読み上げて申し上げます。

まずですね。平成21年、22年の災害の時にそれなりに国土交通省の対応についてご批判はあるかと思えますけれど、その時、私達の神陽団地では大変手助けしていただきましたことを心からお礼申し上げます。したがって、その後の対応については、それぞれのご意見を言っていてよろしいかと思えますが、私達、城原川の間近に控えております66戸の神陽団地としてのですね、それぞれの思い、願い、要望を箇条書きに今から述べます。

まず第一に、平成21年水害が再び来ないようにしていただきたいということです。城原川堤防の補強については、たとえダムが着工したとしてもなかなか完成するまでものすごく時間がかかりますね。その間に早急な対応をお願いしたいということです。具体的にですね。具体的な対応は素人ですからなかなかわかりませんが専門家の方達を含めて具体的な方策を詰めていただきたい。

それから「野越し」これはご存じのように成富兵庫茂安をはじめとする先人の方達の知恵は大変賞賛しなければならないと思います。現在は住宅地が野越し周辺で、ものすごく大雨で水が溜まるわけですね。その辺について、私達、神陽団地の住民はものすごく心配している。懸念心配し、危険視しております。

それから先ほどの2項目にかかわることですけれども、現在、神埼橋南方の1km付近の西側、私達は東側、西側の方に本告牟田地区がありますけれどもそこは国土交通省が護岸補強工事とか堤防工事をしっかりしてやっている。ただ私達から言わせると東側の方も是非実施していただきたいという要望もっております。何度も報告の方が言われたとおり、結局、地球温暖化とかの影響で特段の大雨が降っています。それで大雨が降り出したら私達住民は防災無線の放送をしたりしております。だから今は梅雨時じゃなくて季節外れの大雨も降るわけですね。そういうことでやっぱり私達地域住民も自主防災を自分達の命を守るためにですね、避難訓練とかしていかななくてはなりません。そういうふうに自覚はしております。だけど、その以前の問題として具体的な方策をよろしくお願いしたいということで、簡単ながら読みました。どうも失礼しました。

○住民（8番）

みなさんこんにちは。私は川副町から来た、●●といます。よろしくお願いたします。12年位前に城原川流域委員会があった時に、公募委員として流域委員会に参加させていただきました。その頃、治水の話が十分整理できてなかったの

すが、今、不特定容量は必要ないということで、用水の話がまだ整理できてなくて、治水の話はある程度整理できた。ただ現時点では不特定容量の水は必要ないということになっていますので、治水ダムとして整理できたんだろうと思いますし、もう一つ、今でも安全じゃないかという話が結構ありました。ただ21年のあの水害を私も見て、野越しから水が越えるのを見に行きました。あの水害を見て今の川が今でも安全であるという議論はだいぶ無くなったと思います。どのような河川改修にしても必ず副作用があります。良いことばかりではありません。悪いことも必ずあります。ダムについていえば、間違いなくいえるのは上流と下流の分断です。これは生態系に関しても土砂に関してもそうです。ただ穴あきダム、流水型ダムであれば、こういうダムが持つ最も大きな副作用これは無くなります。ある程度解消できます。そういう意味でこの案を私は評価したいと思っています。その上で3点意見を申し上げます。

まず私、仕事柄長い間有明海に関わってきました。特にゴミ問題にも長く関わってきました。21年の矢部川の大水害の時も現場を見に行きまして、思ったことは圧倒的に流木が増えました。しかも根が付いている流木が。山が荒れているなど思いました。この流木が一斉に城原川の穴あきダムに流れてきた時に、本当に閉塞しないで大丈夫だろうか。益田川とかいろんな経験を積んでおられるようですが、ここは十分に詳細設計で検討して頂いて、例えばバイパス水路を設けるなどしないと、以前とは違って、とにかく流木がそのまま流れてくる現象が非常に多く見受けられる。そのことについて、ぜひ詳細設計で十分な検討をお願いしたいと思います。

もう一点は今様々な環境影響評価をされています。ところが環境影響評価をされているのはあくまで河川区域内です。当然でしょう。国土交通省だから。でも川は繋がっています。実は川の環境が海に最も大きな影響を与えます。例えば有明海でいうと有明海の水は約3年間で川から流れてくる有明海に、川から流れてくる水と入れ替わります。ほとんど湾みたいなところ。湖みたいなところ。ですから、川の環境の影響が海にそのまま及んでいきます。一つの例を申し上げますと、たくさん川から砂利をとったおかげで、川は非常に水底が深くなり、川にとっては良かったけれども、その砂が有明海に流れてこなくなったことでいろんな生物が影響を受けています。でも、今の状況では有明海、海は例えば水産庁や農水省、川は国交省、森林は林野庁と完全に分かれておりまして、そこを一緒に議論するような、一緒に環境を評価できるような、そういうシステムができあがっていない。でもそれは人間の都合であって生き物には何も関係ありません。是非、森から川、海まで繋がる、そういう環境の評価をしていただきたいと思っています。

3点目です。今日の資料のP6-1から地方公共団体のいろんな話し合いの結果がでています。その中で神埼市長の発言に非常に懸念を持っています。神埼市長は野越しを越すようなことがあってはならないと。市長として住民の方に安心感を与えたいという気持ちはよくわかります。ただ何度かでていました、昨年鬼怒川のように、こんな水害起きるはずが無いと思っていた。鬼怒川にも上流にダムがありま

す。でも想定以上の雨が降ったら、いくらダムを造っても水害は起きます。いつかは起きると思っていないといけないと思います。そういう意味で先ほどからでてた野越しについて、できればコンセンサスが得られれば野越しを残していただきたい。その上で受堤をやっぱり造っていただきたい。そうしないとどこから溢れるかわからない。どこが崩れるかわからないという非常に住民の方は怖いと思います。しかしこれは国交省にいても無理です。国交省は河川区域内のことしかできません。これはまさに神埼市の街づくりです。城原川は神埼市を背骨のように流れています。城原川を中心として神埼市は成り立っています。ですから地域全体の流域治水と考えるならば、それは神埼市がやるしかない。国交省にいてもこれは無理だと。以上言いたいことは3点です。

付け加えて少し意見を申し上げたいのですが、長い間、城原川について意見の対立がありました。実はこの意見の対立の中にどうしても新聞紙上に載る時に推進派と反対派それぞれの意見を載けて、いかにもそれぞれが反対して対決をしているような書き方をマスコミがよくします。でも本当はその間のグレーゾーンにいる人達がほとんどなのに、簡単な書き方をして対立をあおるというマスコミのやり方について、いろんところでやっぱり私は問題があるんじゃないかと。やっぱり現場のことをよく知って、現場の人達の意見をよく聞いて、もっとそのグレーゾーンの人達の思いも書くような形をしないと、簡単に対立の構図を造って、おもしろおかしく書くという。こういう報道のあり方についても、今後ぜひ考えてほしいとそういうふうに思っています。以上です。

○住民（9番）

私はこういう所で話をすることはありませんので、下手ですがご了承願いたいと思います。

言いたいことはですね、ダムを小さくして、足りない分を遊水地にして、その遊水地をスポーツ公園化するというのを申し上げたい。遊水地を造るという場所はですね、高速道路すぐ南側、農地がありますね、あの辺が一番いいかと思いますけど、ここに遊水地を造るにしても、反対があると思うんですね、そんなところに遊水地を造って、ということになると思うんですけど、これをスポーツ公園に使う、遊水地に水が入るのは100年に1回しかない。今、野越しで28災以降ですね、野越しから氾濫して被害が出ていないですよ。62、3年くらいですかね。63年といたら人の一生ですよ。こんな長い間野越しから被害がないということは、100年くらいはおそらく遊水地にスポーツ公園を造っても入ってこないと思います。それで、ちょっと小さいダムが上にできれば、なおさら遊水地には水は入らない。そこをですねスポーツ公園にするという提案です。巨大なダムをですよ、仁比山からちょっと上の人家に近いところに造って、今、名勝地になっている九年庵ですね、周りには仁比山神社があるし八天神社があるし、公園もあるですね仁比山、あれか

ら丸見えですよ、私はよく紅葉の湯に入るけど、風呂からおそらくダラーと・・・、それは小さくていいよ、ダムだけで持たせる必要はないと思います。遊水地を造って、そこをスポーツ公園にすれば、みんながそこに行って、私はゲートボールやグランドゴルフは吉野ヶ里歴史公園にっている。あそこは1年2,000円ですけど、普通の人には400円、子供連れは土日にいっぱい来ますよ、400円と駐車場代310円ですけど、それはココだけじゃなくて久留米とか福岡からですよ。要するにスポーツの時代ですよ今は。要するに小さいダムにしてですよ、山奥ならいいですよどんな大きなダムを造っても、人家のすぐ近くだからですよ、景観的にあまり良くないんじゃないかなという気がします。それと発電所が2つありますけど、あれが掛かるか掛からないのは知りませんが、仮に掛かるとすれば、今はクリーンエネルギーの時代ですよ、仮に掛かるのであれば、やめて小さいダムにして掛からないようにした方がよい。掛かるか掛からないかは知りませんが。スポーツ公園の話ですけど、サッカー場とか、テニスとかグランドゴルフ、ゲートボール場とか野球場とか子供の遊び場、周囲は木や花を植えたりして、そこらは反対するかは知らんけど、公園ということになれば、そんなに反対は起こらないと思います。各種、イベントもできますからね。イベントするとしてもそこら辺の狭いところだけですもんね。広い遊水地とかを使ってできるとか、公式的なスポーツ大会もできます。サガン鳥栖の練習もそこでできるようになる。そういうことにすれば、活性化もでき、役立つんじゃないかと思う。今、地域活性化、地域活性化といってもなかなか簡単にはいきませんよ。だからそういうふうにして活性化になるような気がする。だから、洪水調節と公園とですよ、その金の使い方はいいと思いませんか。そういうふうな提案をさせていただきたい。

野越しの話です。千栗土居でご存じでしょ。あれには、成富兵庫が芯に粘土を入れているんですね。芯に粘土を入れて漏水を防止するわけですよ。破堤の大きな原因の一つに漏水があるんですね、他にも今日言うのはやめておきますけど、それはもう無いんですよ千栗土居は壊されて、非常にこれは、皆さんご存じと思うけども刃金土を使って、それはもう無くなって、非常に惜しいことですよ。野越しは、流速を一回逆流させるんですね一度上流に、受堤で、上流に逆流させて流速を0にして、土砂なんかを落として、それから氾濫をさせる、成富兵庫は壊滅的な被害を抑えている。氾濫はするでしょ、床下くらいはしてもいいでしょ、農地にだっていいですよ。それを鬼怒川みたいに壊滅的な、ちょっと途中になったけど、要するに400年続いた野越しは、200年300年後の人が世界遺産に登録する使えるチャンスですよ。夢は残しておかんといいかと思えますよ。そのためには、横堤を造らないといけない。雨が降ったら氾濫して土砂被害が起こりますから、横堤を早く造ってですよ、そして逆流させて流速を0にして・・・。

○住民（10番）

みなさんこんにちは。いちばん最初の方はおはようございます、でしたが、こんにちはになってしまいました。千代田から来ました●●といます。先ほど8番目に発表されました●●さんと同じように私も城原川の流域委員会に地域の代表として参加させていただいた者です。そのときは本当に無責任で城原川については何も知らないまま参加していたのが現状でした。その後、ずっと城原川に係わってきたという状態です。まず流域の安全のために、本当にいろんな対策を考えていただいている国や県に対して、本当に心から感謝したいと思います。この方達はいろいろとお話を聞く中で、心強い味方だというふうに感じております。やっぱり今から先の大災害に対して、命を守るというのが一番大きな必要なことです。その上で今回のダム案についてはいろいろな疑問があります。まずダム上流の山間部、ここはちょっと雨が降ると何百もの土石流が大小発生する場所（脊振地区）ですが、その安全対策はダムによっては防ぐことはできません。また下流域の方は、有明海の干満の差、これを大きく受けて水はけが悪かったり、排水がスムーズにできない場所ですが、ここで一番怖いのは高潮です。これに対してダムは有効ではありません。こういう地域よっての安全の差が、上流、下流だけではなくて平面に広がる地域でもいろいろあります。その土地、その土地、その地域、その地域の非常に危険なものがあるのです。それを一律でダムで解消することはできない。そういう意味では不平等な公共事業かと思えます。またダムは穴あきにしろ、大雨の時に水を貯めます。こういう負のエネルギーを貯めるということの怖さ、危険性も、なかなか説明を聞いても納得がいかない部分があります。そして私たちが大きく感じるのは、ダムに対する違和感。これは何だろうと思うと、それは自分たちのふるさとが壊れていく喪失感、アイデンティティーが壊されるような思い、そういうものにどうしても引っかかってしまう。それともう一つ、細かい説明はダムの素案ではされていませんが、突き詰めて考えていくと恐らく全ての農業用水などは合口されて、一つか二つかのかんがい用水の口になっていくだろう。そうすると、農家はそれに対してお金を払わなければいけないことになるだろう。農家の負担は了解されているのだろうか。そういう疑問も湧いてきます。15年間かけてダムを造るとなった時に、その間は流域は無防備でいなければならない。河川整備が先ず先じゃないかという思いは、以前市の議会の方でも可決されたことだったと思えます。私たちはこういういろんなことに対して、パブリックコメントを出して国にも問いかけました。その一番の代替案として出したのが流域治水という考え方です。国がいろいろ1/50、1/150で対策を考えているのは、その命を守る責任の大きさからだと思うんですが、1/50を考えたら、その責任はそこの方たちはもう終わりです。そして次の方たちが、1/150、毎秒690立方メートルの事を考えられるでしょう。そのことを考えたらその方たちも終わりです。でもそれ以上の洪水に対して、それ以上の災害に対して、私たちは子や孫や子々孫々に至るまで、ここに住んでいる責任が私たちにあると思えます。だからゆっくり、じっくり考えて行かなきゃいけな

いという問題を自分自身にも問いかけています。技術者の専門家として、河川の専門家として、私たちが提案している城原川の流域治水、佐賀平野の流域治水というものを真剣に考えていただけないでしょうか。野越しのことが先ほどからでていますが、この野越しは水を出すだけという施設ではありません。パイプピアの方が先ほど恐ろしいと言われましたが、私も川の側に住んでいて小さい頃から何度も恐ろしい川を見てきました。野越しはパイプピアを守ります。しっかりとした野越しの整備さえされれば、しっかりと地域を守ってくれます。専門家に任せれば良いというお話もありましたが、専門家の方たちで野越しを高く評価している方たちもいっぱいいらっしゃいます。そういう方たちのお話も聞いていただきたいなと思います。私たちのこの城原川というのは日本の中でも先進的な川になっています。それは減災と言った考え方が広く行き渡っているからです。この宝物をどうにか生かした、知恵を生かした地域にちりばめられた、この宝を道しるべとして流域治水というものを再度考えていただければというふうに思って私の意見発表を終わります。

「城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する
関係住民からの意見を聴く場

日 時： 平成28年2月22日（月） 18時30分 ～ 19時25分
場 所： 佐賀県教育会館（第一会議室）

○住民（1番）

皆さんこんばんは。私みたいに後期高齢者になってから皆さまの前に立ちますことをお恥ずかしい限りですけども、年とったからこそ長い世を見てきて、そして言えることがありますので、出掛けにちょっと文章を作って参りましたので読ませていただきます。

鬼怒川が洪水に見舞われました。何度も報道はされませんが、鬼怒川って綺麗な言葉ですけど、ここには鬼が怒った川と書いてあります。それと城原川を私は重ねてしまいました。佐賀では今回も災害を免れてホッとしてますけど、やはり自然の力といいますか、台風が来るのはきっと大潮のときなんですね。それは不思議に繋がっているんです。だから自然界を無視したらいけないと思います。この城原川ダムの反対の原因は私は広滝発電所の生コンの上の方から見ましたら、佐賀平野が光って見えます。輝いて見えます。それはやはり、コントラストで輝いて見える所に、佐賀藩で財をなした人たちがここに明かりを灯してあげましょう、佐賀の平野に明かりを灯してあげましょうと思って、頑張って、頑張って、そして発電所の上からの導管で水を落とし、その水をまた城原川を通過させて岩盤を3mも岩山の硬いところを掘って、九年庵の前の第2発電所で2度起こしているわけですね、その3mのトンネルの掘るのに韓国人の労働者が亡くなったりしてるんです。佐賀への思いをこのように●●さん達が、九年庵を9年かけて造るのも、久留米のお坊さんに頼んで庭を造って、そんな関係は、玉屋さんの牛津にもその方が造られているんですね。やはり、皆さんは行って、その光を灯してあげようと思われた●●さんの気持ちを皆さん踏みにじることができませんか。そしてやはり、2、3年前にお亡くなりになりました●●のご主人は、一所懸命ここが、すぐ破堤しますよ、少しの雨でも大きい岩がゴロゴロ音立てて流れ着いてきます。だから、ここはすぐ破堤しますよとおっしゃってました。先人の知恵を大切に、そしてここが破堤したら、皆さんの住んでる光を灯してくれたところがみんな水浸し、低平地なんです。それを皆さんは考えてほしいと思います。そして、城原川を考える会を、佐大の先生が、取り上げて十何回なさいましたけど、その時もとうとうどっちとも意見が纏まらなくて、やはりお預け状態になりました。そして、城原川が氾濫する、氾濫するとおっしゃいますけど、それは世界的に見ても氾濫するところは潤うんですよ土地が。新たになるんですよ、蘇るんですよ、荒籠なんかで、うまく頭を使って城原川の、●●さんといって、国土交通省の方が一所懸命手伝って、美しい川に野越しを残そうと思われて手伝って下さいましたけど、今こちらにいらっやしませんので

残念で仕方ありませんけど、みんなの祈りと生活の中で培ったものは保護していかないといけないんじゃないでしょうか。城原川を考える会の時に、松本市長さんが参加された時がありましたので、ここは長崎本線が開通してすぐで、馬車でドイツのレンガからタービンから、船で技術者も来てそこでロマンスとかもあったと脊振の村史か読んだ記憶があります。それは、ダムができるようになったら、そこにゲートボール場とか変な家が建って、ダム反対で、みんなどこに行っても目にするんだけど、ここは早期ダムとおかしい、幕が張ってるって友人から指摘されました。ほんとおかしいと思います。だからドイツ村を造って、そこで、余所と違う楽しいイベントができたらいいなと願っております。すみません、未だいっぱい書いておりますので、これで失礼します。

○住民（２番）

私は、神崎市神埼町城原の●●です。よろしくお願いいたします。

私は、素案２－６８に表示されている基本高水６９０トンこれは概ね１５０年に１回の確率で発生する洪水規模、平成１５年１０月２日策定されたものです。これ以降、平成１８年７月２０日に策定された河川整備計画の目標流量５４０トンについて意見を發表します。

基本高水６９０トンが妥当なものかどうかについては常に議論されてきました。今日に至っても疑問が持たれたままです。これは実際に流下した数字ではなく、モデル式に雨量を与えて算出されたものだからと思います。

昨年９月１０日に鬼怒川が決壊し、それに関して多くの専門家から提言等がなされました。９月１２日の読売新聞の「河川氾濫どう対策 満点スペシャル」で東大教授、●●氏が「８日午後１時から４８時間に降った鬼怒川流域の平均雨量は３７０ミリ。国土交通省が１９２４年から４４年間の降雨データを基につくった河川整備計画の基準に当てはめると、１００～２００年に１度の雨となる。」と述べられていました。本当に古いデータが適用されているのに驚きました。これでは、最近の気象の大きな変化は反映されません。

今年に入って２月１２日に「新たなステージに対応した防災・減災キャンペーン」第１回防災・減災シンポジウムが開催され私も参加しました。

●●氏は「気候変動を踏まえた想定外の自然外力への対応について」基調講演されました。平均気温が２０℃から２１℃に１℃上昇すると降水強度１割増加、豪雨頻度は３倍になると言われました。

佐賀では平成２０年６月１９日の県内全域を襲った集中豪雨を受けて、平成２１年５月に「防災・減災フォーラム２００９」が開催されております。

この時も●●氏が基調講演されております。「地球温暖化と水災害」という表題でした。５月３１日の佐賀新聞で大きく報道されております。それによると「九州では１日あたりの雨量が２０世紀末に比べて２１世紀末は１０％増える。豪雨の頻度

で考えると非常に深刻で、100年に1度の豪雨が30～40年に1度起きることになる。堤防などの社会インフラの整備においても50年に1度の水害が20年に1度起こる可能性があることを念頭に置いた計画が必要だ。」と述べられております。

この2ヶ月後の平成21年7月に、素案2-40に記載されております洪水が発生しました。その写真がP2-40の2-2-27です。私の集落はその3号野越しのところにあります。当時、私は区長をしていました。翌年も同じ7月に洪水が発生しました。その写真がP2-42の2-2-36にあります。

このダム検証は、平成22年9月に有識者会議で出された「中間とりまとめ」に基づいて実施されていますが、その後の気象環境は大きく変化し、それでは対応が出来なくなっており、昨年12月に大規模氾濫を前提にした治水対策が答申され、「水防災意識社会再構築ビジョン」が策定され、今後5年間で「水防災意識社会」を再構築しますとされています。

最新のデータを取り入れた、有識者会議で「本とりまとめ」を作成していただき、本当の安心・安全につながる検証をぜひ実施していただきたいと思っております。以上です。

○住民（3番）

皆さん、こんばんは。

これだけ歳をとって、こういう所に来るがらじゃないんですけども、私は生まれが脊振村なんですね。今度ダムができるというのは政所です。政所。だから脊振村というのは、昔は東脊振と脊振村とが2つが脊振村だったんですね。それで政所ちゆうことは、その政所、今ダムができるところは要するに政所、要するに首都と一緒になんですね庶民としてはですね。そういうところからこの私が高校3年の時、この堤防が決壊しました。私その時、神埼の方で、脊振だったけれども、神埼の方で、うちの家があったから、そこで私は下宿というか自炊というか、そういう形で学校へ行きました。それで堤防が切れた時、すぐ、昔は鶴田橋と言ってましたけども、当時はまだ川幅が狭くて、要するに鶴田橋のほんの横から決壊して要するに千代田の方に流れていったかと思えます。で、東の方が決壊しましたですね。そういうことから非常にこの城原川というの、この造るということについて私は反対論文を出しました。で、反対論文を出したのはどういうことかという、要するにそこにダムが出来ると脊振はもうバラバラになっちゃうんですね。それが大きな問題です。私、故郷を無くすようなものなんですね。だから、私も小学校から色々この脊振に住んでて要するに脊振は日本一のものがいっぱいあるんですね。そういうことから学校でも日本一の人間になれよとか色々教育を受けて育った、要するに小学校1年生の時に戦争が始まって5年で終戦というような、その中で小学3年生から6年に終戦になるまでほとんど勉強しておりません。道具を持って学校に行っていました。山を開墾してそこで芋を植えたり色々させられまして、勉強しないで。だか

ら昭和一桁というのは本当に良いときに生まれたか悪いときに生まれたのか分からんけども、私は良いときに生まれ色々経験させてもらえたということは良いことかと思えます。まあそういう事から北山ダムの審議会がありましたですね。さきほど言っておられましたですね。審議会もこの●●先生の審議長の時に私も行きました。そして出てこいということは、論文を先生あたりに出しとったから論文を見られて、要するにあんたもいっぺん出てきて下さいよという事から行きました時に、このダムの建設はプラスマイナスゼロですよというのがありましたですね。造っても造らんでもどっちでんよかと、金は費やす必要は無いようなことを聞いたんですね。それまでしてダムを造る価値があるかどうかということですね。その当時ここに書いてあります1020億円という事でありまして、今、今度は400いくらかになっておりますけども、要するにこの流水ダムというのは私は、あんまりよく分かりませんが、砂防ダムの気の利いたようなものかなとも思ってますけども、実は城原川というのは天井川なんですね。この家なんかも天井川ですから下に、やっぱり成富兵庫さんも水は上に流すことはできなかったから、で、要するに天井川になってしまう。だから天井川にしなければいいじゃないかと。それから、ある程度のこの幅員を広くする事によって、すると流水が出来るという事と、大体脊振に降った雨というのは有明海に行くのに3時間もあつたら有明海に流れてしまうんですね。そういう事からいきまして要するに、このダムの必要性は無いというのは私はちょっと、この森林関係の方を勉強しましたけども、脊振のあるいは森林組合、鳥栖と合併しておりますけども、要するに混合林業というのをやれば地球というのはいつまでも大丈夫なんですね。一斉林業というのをやっております。今まで脊振でですね。脊振は日本で一番行政が造林をやっていくというのは脊振が日本で初めてじゃないかと思えます。二千五百町歩。といってお金が足りなくなって、途中で国のお金の観光造林によって造林をされております。その造林も全部税金を納めておくことによって年間何日出なさいという事で、要するに植林を行われておるんです。それから見まして当時の事を考えると脊振村が一番神埼に近いところで出来た場合には、もう脊振はバラバラになってしまう。

政所も要するに反対の人と賛成の人とおられると思うんですけども、少数の人が賛成で多くの人が反対していると、脊振村の要するに住民投票して決定はしてもらいたいな私思っております。下の方だけ考えて上の方のことは考えない計画はあるかちゅう事ですね。これには非常に私は憤慨しておるんです。大きな事言うと悪いんですけども選挙法から解釈せにゃいけないけれども、そういうことで過疎地になればなるほど過疎地になっていくのが今、この日本の現状なんです。都会だけ大きくなって、あとはほったらかし。私も老人ですから、老人はもうほったらかしですからね。だから、そういうことから考えて脊振は私の郷土ですから、私は絶対反対。だからその時、造ると同時に市民から反対の声が届いてると思いますので、よく関わる係の方よく読んであーして下さい。もっと出してくれと、また出してくれと言われたら、そしたら私持っておりますから、コピーしていくらでも差し上げますか

ら。そういうことで反対をさせていただきたいと思いますので、皆さんよろしくお願いいたしたいと思います。ごめんくださいどうも。

別紙-5

国土交通省九州地方整備局河川計画課内
「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について

① 氏名（フリガナ）	[Redacted]				
② 住所	神埼市 [Redacted]				
③ 電話番号又はメールアドレス	[Redacted]				
④ 職業	なし	⑤ 年齢	74	⑥ 性別	男
意見該当箇所	⑦ ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。 (ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行	<p style="text-align: center;">～ ダム建設に対する意見～</p> <p>ダムの代わりに仁比山地区に遊水池を設け スポーツ公園とする。</p> <p>① S28 災では、雨量、流量痕跡、被災状況から690% 流れていない。</p> <p>② 1/50 (540%) 対応なら遊水池 (必要容量100万m³) がい。</p> <p>③ 62年間「のこし」からの被害はない。遊水池に越流 するのは100年に1回。</p> <p>[遊水池] 寿命永久</p> <p>④ 管理費はダムより安い。</p> <p>⑤ 吉野ヶ里歴史公園スポーツ広場では、高い入場料を払って 多くの子供づれや老人(グラウンドゴルフ)が利用している。</p> <p>⑥ 各種イベント、スポーツ大会。</p> <p>[穴あきダム] 寿命100年</p> <p>水のない巨大ダムは、九年庵を中心とする景勝地の 環境を壊す。どうしてもダムだとするなら、ダムと遊水池 の組合せとする。</p> <p>[公園は、市民の中心的な交流の場となり 地域活性化や市の発展に役立つ、 市民スポーツの時代]</p>			

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。また、頂いたご意見とともに、属性（年代、性別）及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について

フリガナ	[Redacted]				
①氏名	[Redacted]				
②住所	神埼町 [Redacted]				
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]				
④職業	団体職員	⑤年齢	48	⑥性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。				
頁	行	(ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)			
		<p>私は、城原川左岸堤防が近くの住宅街に近いです。</p> <p>平成21年7月の豪雨では、堤防を越えるのではないかと勢いで、水位が上昇し大変怖い思いをしました。</p> <p>堤防の上から見ると家の2階付近を川の水が流れており、この堤防が切れたらどうなるのだろうと思いました。</p> <p>私は、この体験を踏まえ「早くダムを造って欲しい」と思っています。川の水位を下げるのが一番大切だと考えます。</p>			

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。また、頂いたご意見とともに、属性（年代、性別）及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する関係住民からの意見を聴く場

～ 応募用紙 ～

「城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）」について、意見を述べたいので、次のとおり応募します。

(ふりがな)
氏名

住所 佐賀県 神埼 市・町

連絡先 電話番号

年代 (○で囲んで下さい) 10代・20代・30代・40代・50代・60歳以上

性別 (○で囲んで下さい) 男性 ・ 女性

【意見の発表を希望する日】(希望される会場をいずれか1つ○で囲んで下さい)

会場: ①(神埼中央公園体育館) 2月21日(日) 10:00～ ②(佐賀県教育会館) 2月22日(月) 18:30～

【述べられたいご意見の要旨】 ※各項目に関して200文字以内で記載して下さい

城原川問題について~~を~~言述べさせていただきます。
川は本来自然に流れるのがあたりまえだと思います
がなかなか口で言うようにいきません。川について
色々な問題が議論されて来た結果ダム問題が浮いて
きました。城原川ダム問題は今初まったことでは有りません。ダムに
ついては今から約50年ほど前から反対運動もなされて来た
私がお考えには川を隻止めダムをおつてむやみに作るの
は問題だと思ひます。そこで一提案ですがダムに
頼らない治水対策として山の木々を見直すことが必
要だと思ひます。まずその一つとして山に保水力の有る木
(紅葉樹)を植えて山に降った雨水が一気に川に流れこ
まないような対策を取つていただければどうかと思ひます。

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。
また、頂いたご意見とともに、属性(年代、性別)及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について

フリガナ		[REDACTED]				
① 氏 名		[REDACTED]				
② 住 所		佐賀県神埼市 [REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス		[REDACTED]				
④ 職 業		主婦	⑤年齢	63	⑥性別	女
意見該当箇所		⑦ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。				
頁	行	(ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
		<p>有明海の干満差の影響を大きく受ける小さな河川、城原川にダムを作っても地域の安全は図れません。それより今まで施されていた伝統治水を再評価し超過洪水にも耐えられるような、総合的地域治水を施すことが必要です。これは今国が目指している最先端の減災のシステムであり、この地に脈々と根付いている方法です。詳しい考え方は [REDACTED] [REDACTED] のパブリックコメントに記載していますのでここで述べることはしませんが、流域住民の多数が反対しているこの不要な公共事業は英断を持って中止すべきです。そして水没地区の補償とともに、河川整備を早急に行うことが大切です。</p> <p>城原川を今後の河川整備のモデルケースとして活かすことを考えてください。それに耐えうるだけのシステムをこの川は持っています。それらを活かさず過去の遺物としてしか見ないのであれば、将来に大きな禍根を残すこととなります。</p> <p>現在の河川にかかわっていらっしゃる専門家、技術者の方々に期待します。</p>				

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。また、頂いたご意見とともに、属性（年代、性別）及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について

フリガナ	[REDACTED]				
① 氏 名	[REDACTED]				
② 住 所	神奈川県 [REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
③ 職 業	④ 無職	⑤年齢	74	⑤ 性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。 (ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
		<p>城原川の治水について</p> <p>ダムを検討されている所には、色々と賛成反対や家族の中でも滅茶苦茶に迷惑をかけているはずです。</p> <p>それに対して、過去から今日まで 慰謝料、迷惑料と言って物を考えてこられなかったと思っています。</p> <p>今までに、そのような事で迷惑、慰謝料を払ってこなかったかもしれませんが、今後の為にも、今後別の所でも色々迷惑をかけて、郷土の為の方策を考えられる時、ダム建設案など出てくるところに迷惑料を払ったが良いと思います。</p> <p>今回、その先例として、行っていただきたい。</p> <p>毎年、毎年支払いをする、居間までの5年間分も一度に支払う。その様にここでぜひ実現をして将来に備えて下さい。</p> <p>地元では、とても迷惑、早く結論と言われるのは尤もな事です。</p> <p>時間をかけてでも、最善の方法を導き出すことが一番大切と思っています。</p> <p style="text-align: center;">よろしくをお願いします。</p>			

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。また、頂いたご意見とともに、属性（年代、性別）及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について

フリガナ	[REDACTED]				
① 氏 名	[REDACTED]				
② 住 所	神崎市 [REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
③ 職 業	④ 無職	⑤年齢	74	⑤ 性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。 (ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
		<p>自然に影響が少なく、生き物が棲みやすい環境の為に穴あきダムの建設を。</p> <p>現在計画されている場所は、色々な地球状況の変化で危なくなる所と思っています。</p> <p>毎年 100mm/s 以上の降雨が、数回起こるようになることもあります。</p> <p>この短期間の計測結果から、現在のような予測を立てて、1/150 ではなく毎年のように 大量降雨が続く、年により早魃もある時代が近い将来起きる事もあります。現に、1800 年代 ジャワでの火山噴火で地球の状況が変わりヨーロッパや日本でも洪水と早魃が繰り返しました。</p> <p>昨年大きく新聞で特集が組まれ、それを呼んだ知識です。</p> <p>コンクリートで造り、山津波で大量の水と土砂が 100m/sec くらいの速度で流れ込んでもよい 広い平原の中の川に堰を造り その量を受止める高さが低く広い面積でカバーできる場所を選び、コンクリートの働きは、50 年～80 年あれば、そこで育った樹木が自然に近いダムになるその様なものを脊振地元の人達と話合い造る事が出来たら、平素は自然の流れ、生物環境も保たれるものを希望します。</p>			

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。また、頂いたご意見とともに、属性（年代、性別）及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について

フリガナ	[REDACTED]				
① 氏名	[REDACTED]				
② 住所	神崎市 [REDACTED]				
③電話番号又はメールアドレス	[REDACTED]				
③ 職業	④ 無職	⑤年齢	74	⑤ 性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。 (ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
		<p>脊振の開けたところに、緑のダム（穴あきダム）を希望します。</p> <p>堰の高さ、2m～3m、そこで受け止める水量も十分な所に。</p> <p>山では、地這り、深層崩壊等で勢いよく流れてくる土砂がぶつかり 流れが分散し後で一つになれるところ、そのほか種々の色々な事がうまく解決できるように、地元の人と十分に話し合い、一つ一つの山々に急に流れ込まないように、木製ダムがつくれれば、穴あきダムへの流入は、穏やかになります。</p> <p>地元の人と話し合い、時間がかかっても、その時間の為にダム予定地の人には迷惑料が支払っていただいたら、世界中のどこにもないような素晴らしいダムが造れると思っています。</p> <p>未だ、地元の人達にこの話はしていません。ダムは、どうしても必要な時に造ること、ダムは環境に悪いと物凄い話になった時に切り出した案で、具体的なものは持っていません。ご検討いただけるなら大きな喜びです。</p> <p>よろしくをお願いします。</p>			

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適切に取り扱います。また、頂いたご意見とともに、属性（年代、性別）及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について

フリガナ	[Redacted]				
① 氏 名	[Redacted]				
② 住 所	埼玉県三郷市 [Redacted]				
③電話番号又はメールアドレス	[Redacted]				
④ 職 業	なし	⑤年齢	72	⑥性別	男
意見該当箇所	⑦ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。 (ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				
検討報告書(素案)の全体について		<p>城原川の治水対策として、城原川ダムではなく、子孫に禍根を残すことがない「耐越水堤防への堤防強化+野越」を選択すべきである。</p> <p>2015年9月の鬼怒川の堤防決壊による大水害を踏まえれば、城原川においても耐越水堤防への堤防強化を実施すべきであり、且つ、城原川の伝統的な治水対策「野越」を活用すべきである。</p> <p>「耐越水堤防への堤防強化+野越」の治水対策は、</p> <p>① 城原川ダム以上の治水効果を得ることが可能である。</p> <p>② 事業費が城原川ダムよりはるかに安い。</p> <p>③ 大洪水が来て越水が生じても破堤を防げるので、壊滅的な被害を回避することができる。</p> <p>一方、城原川ダムは、副ダムが生物の行き来を妨げる障害物になり、また、洪水後、川の濁りが長期化することが避けられず、水生生物に対して少なからず影響を与えることが危惧されるが、「耐越水堤防への堤防強化+野越」にはそのような自然へのダメージがない。</p> <p>流水型ダムは日本では10年程度の実績しかなく、大洪水が来た時に、洪水吐きの小さな穴が閉塞することがないのか、鋼鉄製スクリーンが流木等で覆われて洪水の通過を遮ってしまうことはないのか、全くの未知数である。城原川ダムが閉塞すれば、城原川ダム下流の河道はダムの洪水調節を前提として計画されているから、大氾濫の危険にさらされることになる</p> <p>詳細は別紙で述べるとおりである。</p>			

※本応募用紙については、「行政機関の保有する個人情報に関する法律」に基づき適切に取り扱います。また、頂いたご意見とともに、属性（年代、性別）及び住所のうち、県名と市町村名を公表する場合があります。

城原川ダム検証に関する意見の別紙 ()

検証報告書素案を見ると、城原川ダム案が他の治水対策案に対して事業費が低く示されており、事業費が小さい城原川ダム案を選択することが既定路線になっている。

しかし、川を分断し、川の自然に多大な影響を与える城原川ダム、大洪水時に閉塞を起こしてダム下流部を氾濫の危険にさらすことが心配される城原川ダムを本当に造ってよいのか、そのように将来の憂いがある城原川を子孫に残してよいのか、真剣に考えるべきである。

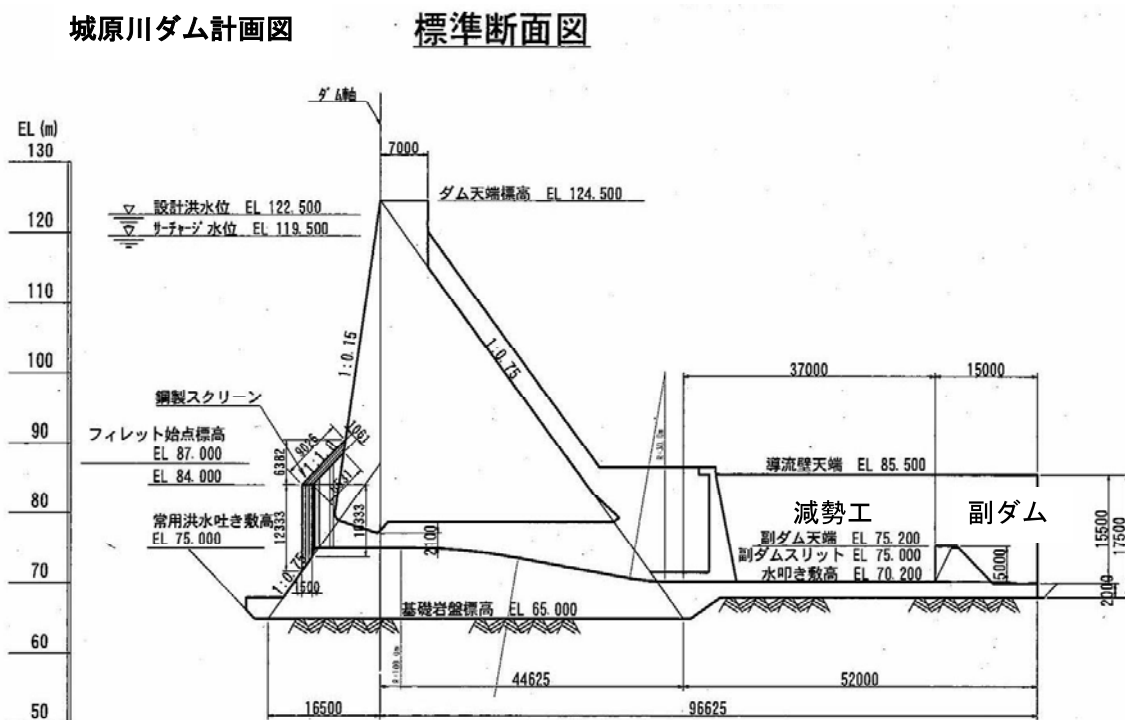
以下、最初に城原川ダムの問題点を述べ、次に城原川ダム以上の治水効果がある治水対策案について述べる。

1 自然にやさしくない流水型ダム（穴あきダム）

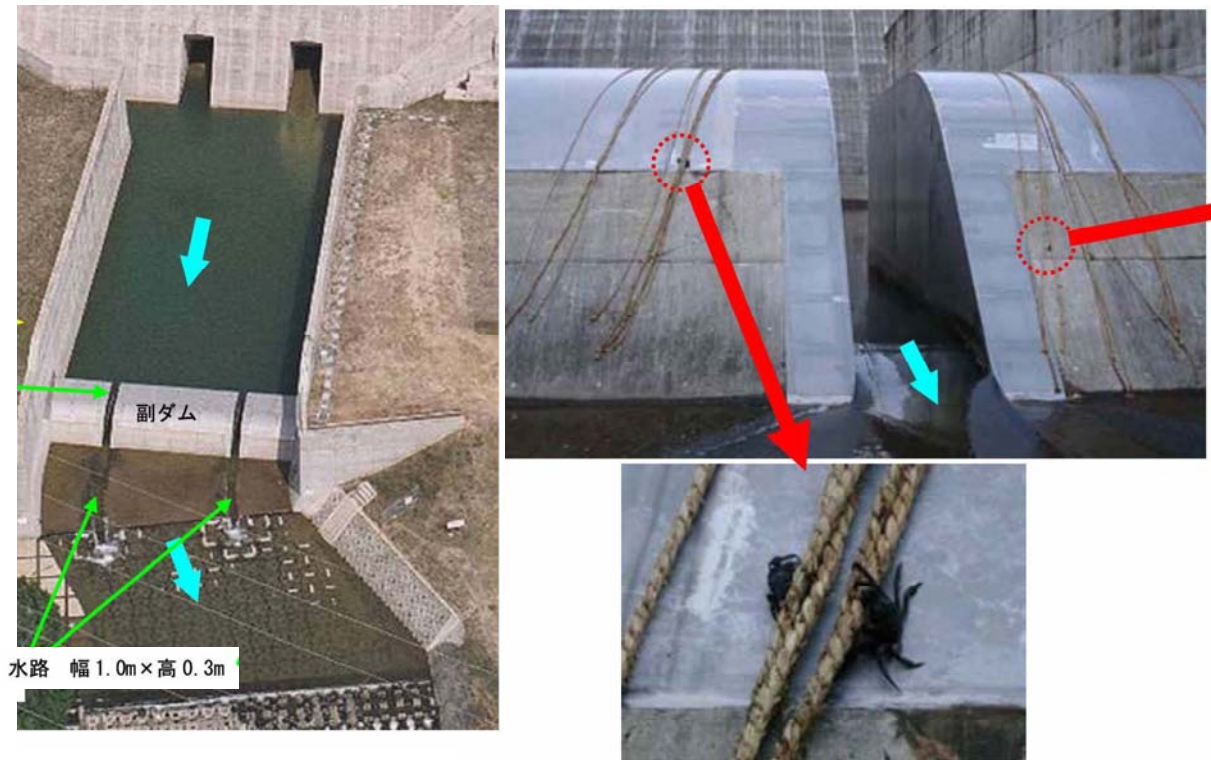
1-1 水生生物の行き来を妨げる障害物「副ダム」

流水型ダム（穴あきダム）は上流と下流の連続性を確保できることを売り物にしているが、実際には下図のとおり、洪水吐きの下流側に洪水の勢いを減衰させるために減勢工がつくられる。減勢工は下流側に副ダムがあって、それが水生生物の行き来を妨げる障害物になる。また、副ダムの上流側に形成される貯水域で水質が劣化することも予想される。

流水型ダムであっても、ダム建設後は生き物が上下流を自由に行き来できる状態ではなくなってしまうのである。



益田川ダムの副ダム（島根県のHPより）



上の写真は日本で最初の流水型ダムである島根県の益田川ダムの副ダムである。

幅が50メートル近くある副ダムにおいて水が流れるスリットの水路は1m幅のものが2か所付いているだけであるから、流速が高まり、スリットの水路で行き来できる水生生物は限られる。

右側の写真はロープを副ダムに垂らしたところ、スリット水路を通れないツガニがロープをつたって遡上するようになったという報告であるが、しかし、このことは逆に、副ダムが水生生物の遡上を妨げる障害物になっていることを示している。ツガニはロープでようやく対応できたとしても、他の水生生物については不明である。副ダムの存在が水生生物の生息域を狭める要因になっていると考えるべきである。

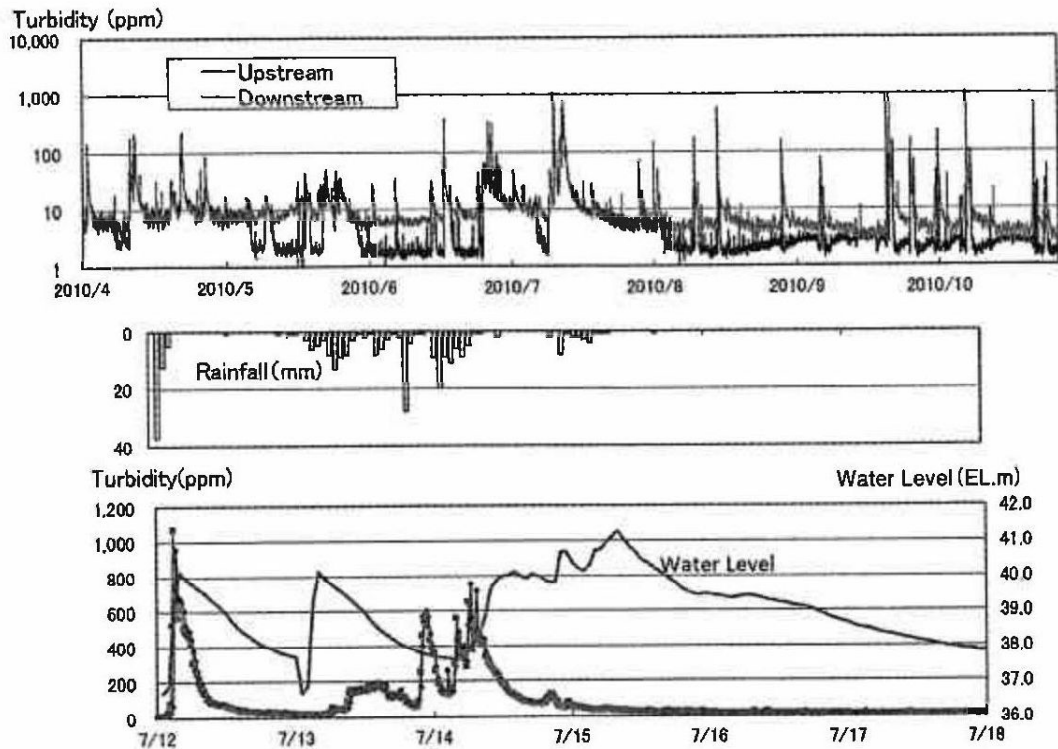
城原川においても、城原川ダムが建設されれば、副ダムの存在が水生生物の生息に多大な影響を与えることになるだろう。

1-2 濁りの長期化

流水型ダムは一時的にせよ洪水を貯留するので、河川水の濁りが長期化することは避けられない。ダムがなければ、洪水の通過後に河川水の濁りはすみやかになくなるが、流水型ダムの場合にはそうではない。

下記のグラフは、2010年に益田川ダムについて観測調査した結果である。観測期間中に複数回の洪水が発生し、高濁度水が流下している、ダム上流側（Upsream）は洪水終了後に

濁度がすみやかに低下しているのに対して、下流側 (Downstream) は 10～数 ppm の濁度が続いている。流水型ダムであってもダムであることには変わりなく、清流に戻りにくくなってしまうのである。



図—11 益田川ダムにおけるダム上下流の濁度変化 (2010年)

(角哲也「流水型ダムの歴史と現状の課題」水利科学 2013年 No.332)

しかも、これはさほど大きくない洪水の場合である。益田川ダムは完成してからまだ10年間程度しか経っておらず、今後、大洪水が来て土砂が一挙に流出した場合、ダム下流で高濁度水が長期化することが心配される。

したがって、城原川ダムが建設されれば、川の濁りが長期化し、魚類の成育や生態に対して少なからず影響を与えることを危惧せざるをえない。

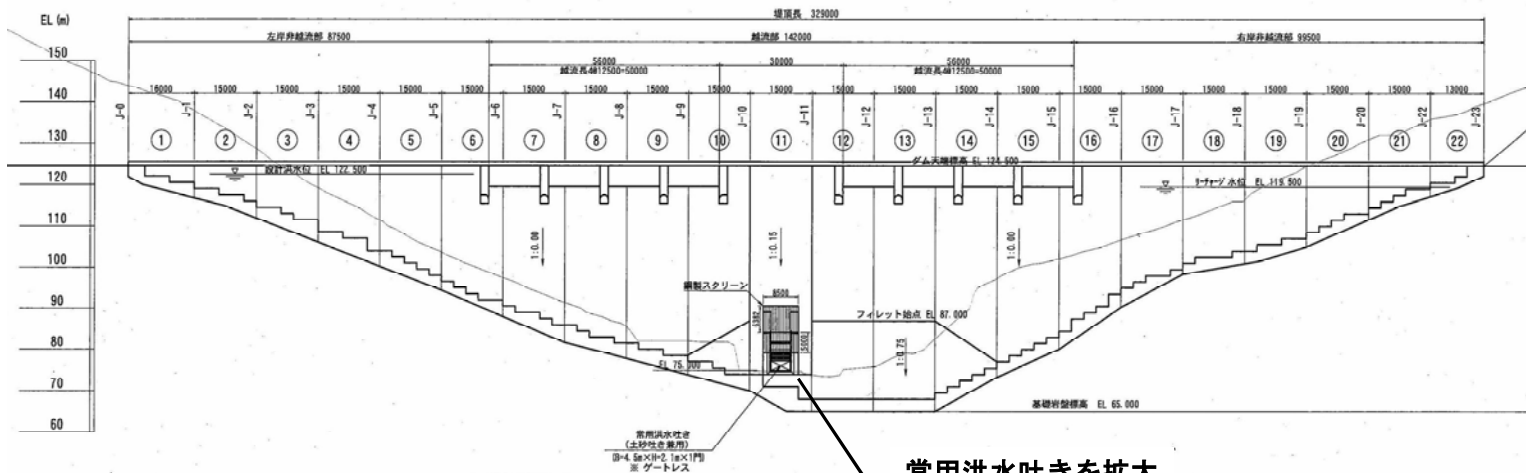
2 流水型ダム (穴あきダム) の危険性

—大洪水時には閉塞して洪水調節機能を喪失—

城原川ダムのような流水型ダムについて強く心配されることは、大洪水時に流木や土砂などで洪水吐きが詰まって、洪水調節機能が失われてしまうことである。

城原川ダム計画図

正面図(上流面図)



常用洪水吐きを拡大

城原川ダムの計画図を見ると、常用洪水吐きは横 4.5m、縦 2.1mの穴が一門である。その手前に鋼製のスクリーンを設置して、流木等の流入を防ぐとしている。

鋼製スクリーンとは、下の写真に示す益田川ダムの例と同様のものである。

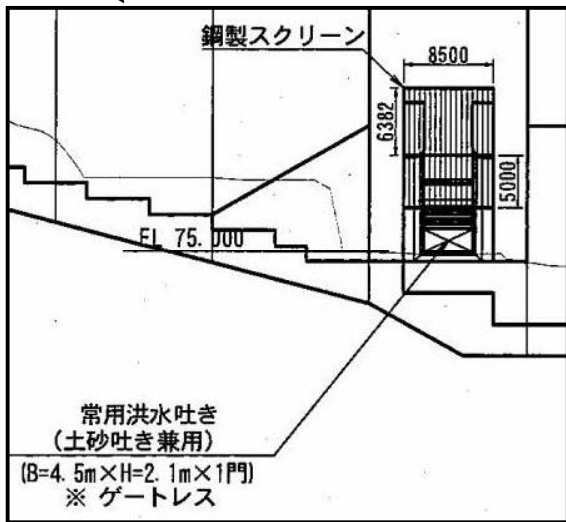
しかし、これで本当に閉塞を防ぐことができるのであろうか。

特に山腹が崩壊したような大洪水時には、枝葉が付いた樹木そのものが土砂とともに一挙に流出してくるであろうから、鋼製スクリーンは流出樹木や土砂で覆われて、通水能力が激減してしまうことが予想される。

流水型ダムといっても、その例は極めて少なく、歴史がまだ浅い。日本で最も古い益田川ダムさえ、完成してから約 10 年しか経っていない。その後、完成した流水型ダムは石川県の辰巳ダムであるが、完成してから約 3 年である。

日本での流水型ダムの実例は現在たったこれだけであり、しかも、益田川ダムや辰巳ダムではいまだ大洪水

水が来ておらず、大洪水が来た時に、流水型ダムの小さな洪水吐きが閉塞することがない



益田川ダム(島根県のHPより)



流木止め設備(流木閉塞防止設備+流木補足工)

のか、鋼鉄製スクリーンの周辺がどうなるのか、全くの未知数なのである。

常識的には、大洪水時には鋼鉄製スクリーンが流出樹木や土砂で覆われて、閉塞してしまう危険性が十分にあると考えられる。

城原川ダムが閉塞すれば、城原川ダム下流の河道はダムの洪水調節を前提として計画されているから、大氾濫の危険にさらされることになる。

3 2015年9月洪水の鬼怒川堤防決壊を踏まえれば、耐越水堤防の導入が必要

3-1 技術的に確立している耐越水堤防工法

昨年9月の台風18号で鬼怒川の堤防が決壊し、甚大な被害が発生した。堤防の決壊で鬼怒川から溢れた洪水が家々を次々と襲っていく凄まじい状況が放映され、堤防決壊がもたらす被害の恐ろしさに息を呑む思いであった。鬼怒川の堤防決壊地点は周辺より堤防高が最も低い地点であって、堤防を越流した水が川裏側の法面を洗掘した。しかも、この付近は堤防天端幅が確保すべき長さの2/3しかなかったため、短時間で破堤に至った。堤防決壊が引き起こす恐ろしさを知らしめた水害であった。

今回の鬼怒川水害を踏まえれば、流域住民の生命と財産を守るために堤防が決壊しないように強化すること、少なくとも決壊しづらい堤防に強化することが今後の治水対策でも重要な課題である。

決壊しない堤防、決壊しづらい堤防への強化は、ダム検証では治水対策案のメニューに一応入っているものの、技術的にいまだ確立していないという理由で、対策案に採用されないようになっている。

しかし、実際には旧建設省土木研究所において1990年頃までに耐越水堤防工法は技術的に確立し、一部の河川でその普及が進められた。

旧建設省土木研究所次長であった[]氏は氏のホームページ「鬼怒川・小貝川から考える」<https://kinukokai.amebaownd.com/>で次のことを明らかにしている。

昭和40年代、新潟県の加治川などで堤防決壊による水害を経験した建設省は、土木研究所に堤防を越水に耐えられるようにする技術の研究・調査を依頼し、土木研究所で耐越水堤防技術の研究が進められた。土木研究所で開発した耐越水堤防「アーマーレビー」は、兵庫県の一級河川・加古川や三重県の一級河川・雲出川などで具体化された。

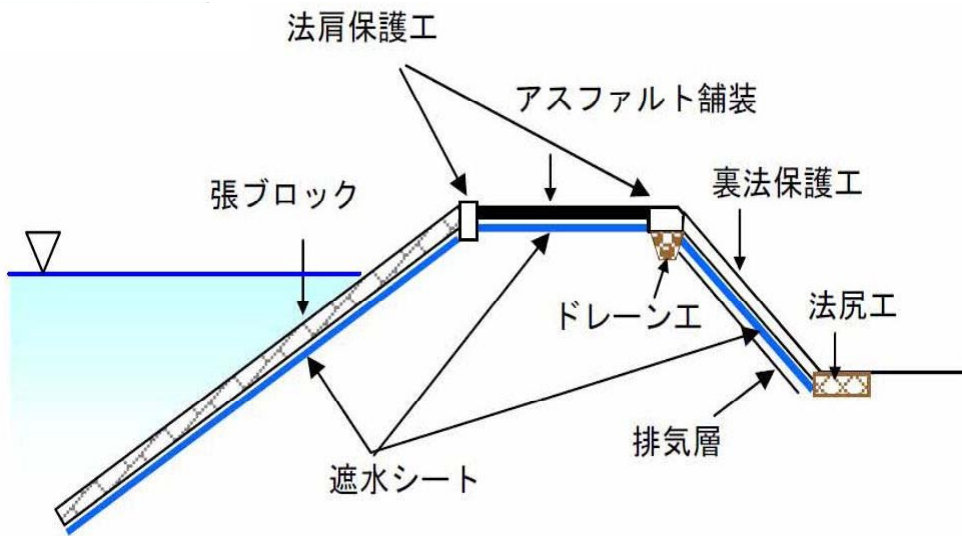
しかし、2001年、川辺川ダムに反対する住民らと国交省との間で行われた川辺川ダム住民討論集会において、住民側が「堤防強化をすればダムは不要」と主張したことから、実施設計までされていた堤防強化が中止され、2002年には「河川堤防設計指針」から堤防強化に関する記述がすべて削除される事態となった。

雲出川で実施された耐越水堤防「アーマーレビー（鎧型堤防）」は次図のとおりである。

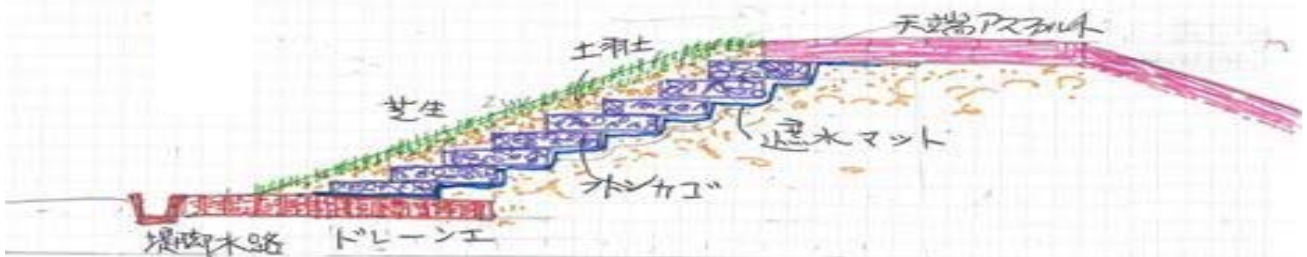
1999 年度に完成している。[redacted]氏は最近になって、川の自然にも配慮した耐越水堤防「減勢フトンカゴ」も提案している（下図参照）。フトンカゴとは角型の大きなじゃかごである。

鎧型堤防（アーモアレビー armor levee）

雲出川の耐越水堤防（1999 年度に完成）（淀川流域委員会の資料より）



[redacted]氏（元・建設省土木研究所次長）提案の「耐越水堤防」（減勢フトンカゴ）



堤防高さ6mの場合				
布団かご(50cm厚)	合算延長16m	堤防縦断方向1m当たり		20万円
吸い出し防止マット(10cm)	同上	20m	同上	40万円
合計				60万円

耐越水堤防工法は技術的に確立し、一部の河川で実施されつつあったにもかかわらず、国交省はダム事業推進の妨げになるとして、耐越水堤防工法をお蔵入りにしてしまったのである。

上述のアーマーレビーは1メートル当たり50～100万円で実施できるとされている。減勢フトンカゴは60万円程度であり、いずれも安価な堤防強化工法である。

城原川の直轄区間の延長は約9キロメートルである。堤防強化は破堤した場合に大きな被害が生ずる箇所を実施すればよいのであるが、仮に直轄区間の両岸全部で実施するとし、その費用は $50\sim 100$ (万円/m) $\times 9000\text{m} \times 2 = 90\sim 180$ 億円であり、現実に実施可能な事業費にとどまる。

3-2 耐越水堤防への堤防強化を行えば、城原川の流下能力は飛躍的に高まる

城原川ダムに関する検証は、城原川河川整備計画の目標流量を前提として行われている。城原川河川整備計画の目標流量は、概ね50年に1回の確率で発生する洪水規模とされ、日出来橋地点において $540\text{ m}^3/\text{秒}$ になっている。そして、今後30年間の河川整備計画の河道整備で達成する流下能力(河道目標流量)は日出来橋地点で $330\text{ m}^3/\text{秒}$ である。すなわち、城原川ダムの洪水調節で $540\text{ m}^3/\text{秒}$ を $330\text{ m}^3/\text{秒}$ に下げ、 $330\text{ m}^3/\text{秒}$ を河道整備で対応することになっている。

この洪水目標流量 $540\text{ m}^3/\text{秒}$ は洪水実績流量から見て、 $1/50$ の洪水規模の流量としてはかなり過大であり、一方、河道整備後の流下能力 $330\text{ m}^3/\text{秒}$ は洪水後の痕跡水位の調査結果から見て、逆に過小に評価しているが、ここではこれらの問題はさておくことにする。

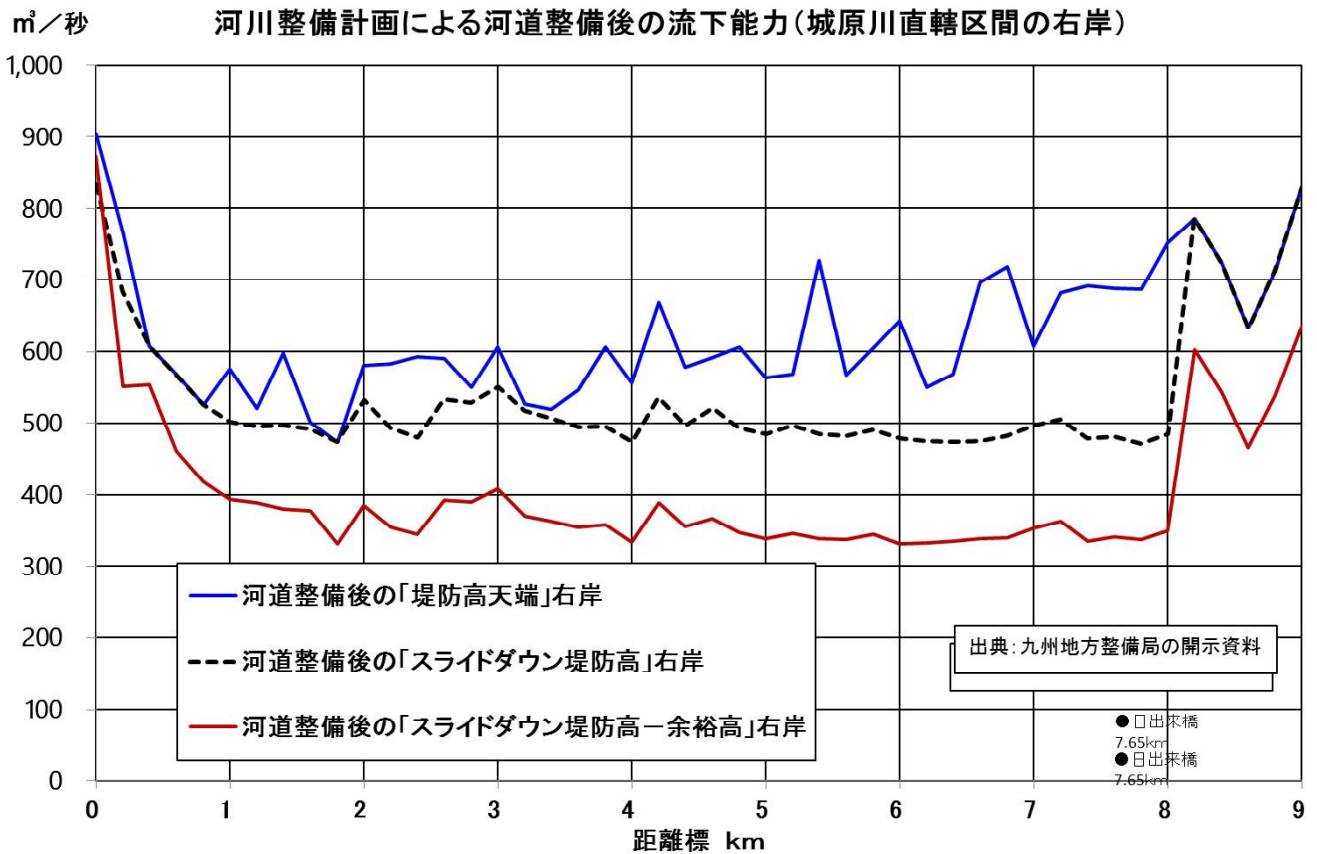
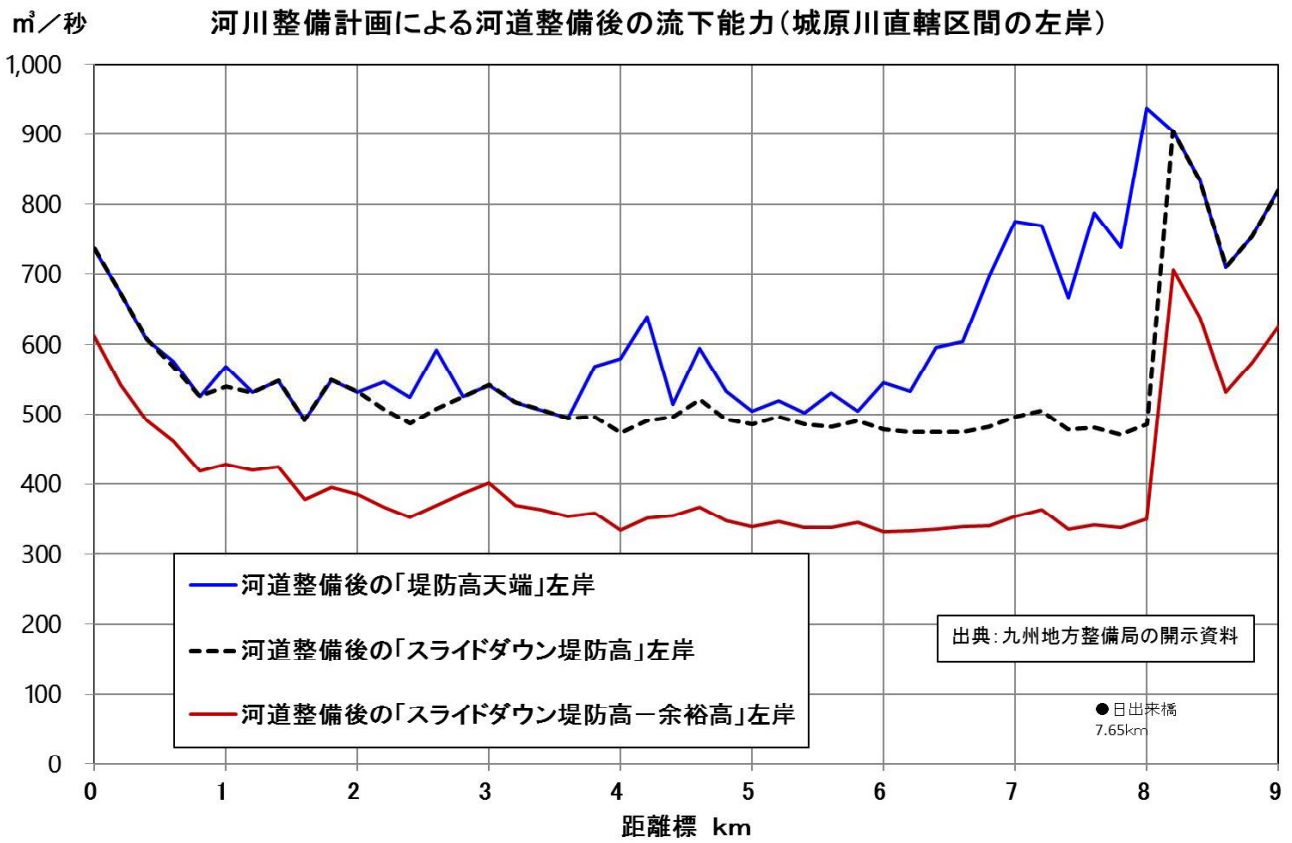
まず、国交省が計算した城原川の河道整備後の流下能力を見ると、左岸、右岸それぞれ、次図のとおりである。これらの図においてスライドダウン堤防高とは、堤防の幅が計画幅に足りない場合にその不足分を堤防高の不足高に換算して、堤防天端高から差し引いた高さを意味している。河川整備計画による河道整備後のスライドダウン堤防高から余裕高(城原川は 0.8m)を差し引いた高さの流下能力が、国交省が示す河道整備後の流下能力である。

これらの図を見ると、河道整備後の「スライドダウン堤防高－余裕高」の流下能力が左岸、右岸とも $330\text{ m}^3/\text{秒}$ 以上となっている。これが国交省が示す、河川整備計画による河道整備後の流下能力 $330\text{ m}^3/\text{秒}$ に対応している。

一方、堤防天端高の流下能力を見ると、左岸右岸ともほとんど $500\text{ m}^3/\text{秒}$ 以上の値になっている*。3-1で述べた耐越水堤防への強化を行えば、堤防天端高までの流下が可能となるから、目標流量 $540\text{ m}^3/\text{秒}$ に対して残りの不足分 $40\text{ m}^3/\text{秒}$ を下げる措置を講じれば、城原川ダムなしで河川整備計画が示す目標流量への対応が可能となる。

そして、耐越水堤防への強化によって、 $540\text{ m}^3/\text{秒}$ を超える洪水が来ても、堤防の決壊を防ぐことができるので、安全度を著しく向上させることができる。

※ $500\text{ m}^3/\text{秒}$ をわずかに下回っているのは左岸 1.6 km 付近、右岸 1.8 km 付近だけであるから、その付近だけ堤防を嵩上げすれば、 $500\text{ m}^3/\text{秒}$ 以上の流下能力が確保される。



4 伝統的な治水工法「野越」を活用すべきである

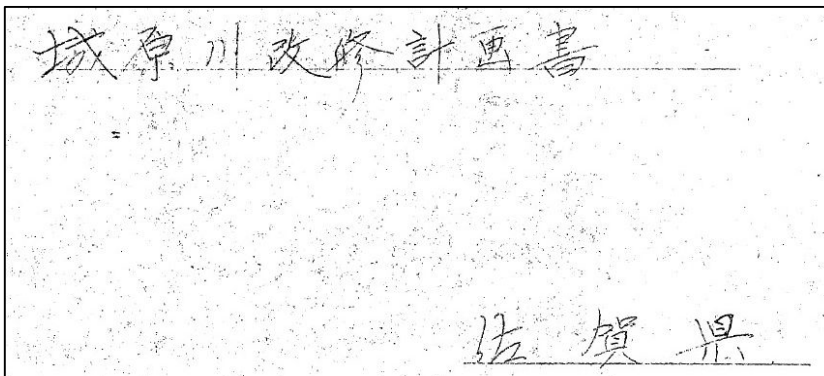
4-1 佐賀県の城原川改修計画書

城原川には伝統的な治水対策である野越がある。江戸時代初期に佐賀藩家老の成富兵庫が進めたものであって、堤防の低い場所をつくって越流させ、洪水を減勢させる。城原川の野越は受堤と一体となっていて、受堤により氾濫流は巧みに誘導され、氾濫流が必要以上に広がることは抑制され、特に集落に被害を与えることはなかった（「城原川流域における野越の役割と効果に関する研究」()土木史研究 第21号 2001年5月)。

戦後の1948年、49年と、連続して水害を受けた城原川では1949年から災害復旧助成事業による改修工事が始まり、野越（霞堤越流堤）の越流堤が再あって整備されていった。

野越の効果については昭和30年代の佐賀県の城原川改修計画書に下記のとおり、最大計画洪水流量445 m³/秒のうち、115 m³/秒を野越8箇所から堤内地に越流させ、残り330 m³/秒を河道で対応すると記されている。

約400年前から治水機能を発揮してきたこの伝統的な治水対策「野越」を活用すべきである。



番号	越流量	番号	越流量
I	17.3 m ³ /s	V	15.2 m ³ /s
II	12.5	VI	22.4
III	7.1	VII	15.2
IV	21.0	VIII	7.1

以上の越流部は放流200年に対し 445 m³/s の洪水を
330 m³/s の洪水が来る

4-2 城原川ダムの検証における野越の評価

今回の城原川ダム検証では、野越を含む治水対策案が一応検討されている。野越を含む対策案のうち、「野越（部分的に低い堤防）＋河道改修」の対策案の内容は下記のとおりである。

（九州地方整備局の城原川ダム検証の開示資料より）

グループ3:できるだけ既存施設を活用して洪水を調節する案

対策案⑧:河道の掘削＋部分的に低い堤防の存置

<p>■事業費 約695億円</p> <p>(治水対策案)部分的に低い堤防の存置 約121億円</p> <p>河道の掘削 約502億円</p> <p>(河道改修) 河川整備計画 約72億円</p> <p>■事業内容 河道掘削と流域対策の組合せの主な事業内容</p>	
<p>【治水対策案】</p> <p>■河道改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削 約463千m³ ・築堤 約29千m³ ・用地買収 約3ha ・橋梁改築等 国区間13橋 県区間4橋 ・堰 国区間1基 県区間5基 <p>■部分的に低い堤防の存置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部分的に低い堤防の存置 5箇所 ・築堤 約66千m³ ・用地買収 約4ha ・家屋補償数量 71戸 	<p>【河川整備計画】</p> <p>■河道改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河道掘削 約116千m³ ・築堤 約118千m³ ・用地買収 約4ha ・家屋補償数量 35戸 ・橋梁改築等 1橋

■部分的に低い堤防の存置(地役権方式)横断面イメージ



■野越諸元

名称	貯水面積	貯水容量	調節量
野越①～⑤	314千m ²	145千m ³	48m ³ /s

※合計は四捨五入の関係で一致しないことがある

すなわち、この対策案は、

i	河川整備計画による河道改修（ダム案と共通）	約 72 億円、
ii	野越（部分的に低い堤防）5 箇所（調節量 48 m ³ /秒）	約 121 億円
iii	河道改修（i 以外の河道改修）	約 502 億円
	計	約 695 億円

である。しかし、城原川ダム案の 511 億円（ダムの残事業費 439 億円＋河川整備計画の河道改修の費用 72 億円）と比べると、かなり高くなっているから、採用されるはずがなく、野越についても一応検討したというポーズを示すものに過ぎない。

しかし、ここで注目すべきことは野越 5 箇所では 48 m³/秒の効果が見込まれていることで、一野越の効果は小さく、過小評価しているように思われるが、少なくとも 48 m³/秒の調節効果を見込むことは可能である。

となると、目標流量 540 m³/秒に対して耐越水堤防への堤防強化で不足する 40 m³/秒（**3-2** 参照）は、野越で対応できることになり、「耐越水堤防への堤防強化＋野越」が城原川ダム案に代わる治水対策案になる。

5 「耐越水堤防への堤防強化＋野越」のまとめ

（1）城原川ダム以上の治水効果を得ることが可能である

① 耐越水堤防への堤防強化を実施すれば、堤防天端高までの洪水を流下させることができ、且つ、それを超える洪水が来て越水が生じて破堤を防ぐことができる。

河川整備計画による河道整備後の堤防天端高の流下能力は国交省の計算ではほぼ 500 m³/秒以上ある。

② 伝統的な治水対策「野越」は国交省の計算でも 5 箇所では 48 m³/秒の調節が可能である。

③ よって、「耐越水堤防への堤防強化＋野越」で 548 m³/秒以上の洪水への対応が可能となり、河川整備計画の目標流量 540 m³/秒を超える治水効果を得ることができる。

（2）事業費が城原川ダムよりはるかに安い

① 耐越水堤防への堤防強化は 1 メートルあたり 50～100 万円であるから、仮に直轄区間 9 km の両岸全部について堤防強化を行ったとしても、90～180 億円。

② 野越は国交省の見積もりでは 5 箇所では 121 億円

③ よって、河川整備計画による河道改修約 72 億円を加えると、全事業費は 90～180 億円

+121 億円+72 億円=283~373 億円になる。

④ 城原川ダム案 511 億円と比べて、はるかに安上がりである。

(3) 大洪水到来時の壊滅的な被害を抑止できる

流水型ダムは日本では 10 年程度の実績しかなく、大洪水が来た時に、洪水吐きの小さな穴が閉塞することがないのか、鋼鉄製スクリーンが流木等で覆われて洪水の通過を遮ってしまうことはないのか、全くの未知数である。

城原川ダムが閉塞すれば、城原川ダム下流の河道はダムの洪水調節を前提として計画されているから、大氾濫の危険にさらされることになる。

これに対して、「耐越水堤防への堤防強化+野越」は、堤防天端高を超える大洪水が来て越水が生じても破堤を防げるので、壊滅的な被害を回避することができる。

(4) 自然へのダメージがない

流水型ダムは上流と下流の連続性を確保できることを売り物にしているが、実際には下流側に設置される副ダムが水生生物の行き来を妨げる障害物になる。さらに、流水型ダムであってもダムであることには変わりなく、洪水後、川の濁りが長期化することは避けられず、魚類の成育や生態に対して少なからず影響を与えることが危惧される。

一方、「耐越水堤防への堤防強化+野越」はこのような自然へのダメージがない。

以上のことを総合すれば、城原川の治水対策として、城原川ダムではなく、子孫に禍根を残すことがない「耐越水堤防への堤防強化+野越」を選択すべきことは自明のことである。

フリガ ナ	[REDACTED]				
① 氏 名	[REDACTED]				
② 住 所	栃木県鹿沼市 [REDACTED]				
③ 電話番 号又は メールア ドレス	[REDACTED]				
④ 職 業	無し	⑤ 年齢	62	⑥ 性別	男
意見該 当箇所	⑦ ご意見は項目ごとに200文字以内で記載してください。 (ご意見が200字を越える場合は、併せてその内容の要旨(200字以内)も記載してください。)				
頁	行				

【虚構の費用対効果でダム事業を正当化することは許されない】

「城原川ダム事業の年平均被害軽減期待額は、約 45 億円／年となった。」と書かれているが、現実とかけ離れた架空の費用対効果の計算をしており、不当である。水害統計によれば、佐賀県における水害被害額は、1996 年～2005 年の 10 年間で 144 億 6700 万円であり、年平均被害額は約 14 億円 4670 万円である（いずれも 2000 年価格）。

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kasen/jiten/toukei/birn45p_index.html

同じく、2004 年～2013 年の 10 年間で 195 億 5300 万円であり、年平均被害額は約 19 億円 5530 万円である（いずれも 2005 年価格）。

すなわち、佐賀県内の全河川における水害被害額は、年平均 20 億円に満たない。

城原川本川での実績年平均被害額がいくらなのか私は知らないが、城原川は佐賀県内の河川の一部にすぎないから、20 億円より確実に小さい。

城原川ダムによる年平均被害軽減期待額は、年平均被害額よりも小さいから、それより更に小さくなるはずであり、約 45 億円になるはずがない。

虚構の費用対効果の計算でも B/C は 1.3（全体事業）にすぎない。現実に沿った計算をすれば、B/C が 1 を下回ることは確実である。「部分が全体より大きい」とする虚構の費用対効果を根拠にダムを正当化することは許されない。

5-5	<p>【生物多様性が失われることの損失が費用対効果で考慮されていないことは不当である】</p> <p>ダム事業に係る被害軽減効果（貨幣換算が困難な効果等による評価）として、想定死者数の減少等が書かれているが、ダムによって生物多様性が失われることの損失が無視されており、ご都合主義である。</p> <p>生物多様性が失われることの損失も適正に評価するべきである。</p>
4-81	<p>【鬼怒川大水害の教訓に学ぶべきである】</p> <p>2015年9月10日に起きた鬼怒川大水害は、ダムに依存し、堤防の強化を疎かにした河川行政の誤りを露呈するものであった。一定の計画規模を超える洪水が来たら破堤して一巻の終わり（財産はあきらめて命からがら逃げるだけ）となっても仕方がない（ハード対策としての超過洪水対策は高規格堤防しかない）という定量治水の誤りでもあった。ダムは想定外の豪雨には効果が限定的であるという教訓から学ぶべきである。</p> <p>城原川ダム案において「想定最大規模の洪水が発生した場合」には、「河川整備基本方針レベル規模の洪水が発生した場合に比べ、計画高水位を超える区間が増加するため、堤防決壊の可能性がさらに高まる。」と書かれているが、無責任である。</p>

	<p>河川整備基本方針レベル規模の洪水が発生した場合でも壊滅的な被害が出ないように、ダムに頼らずに堤防の強化に努力するべきである。</p>
	<p>【野越しと堤防強化で河川整備を行うべきである】 代替案に堤防強化策がないのは不当である。</p>

国土交通省九州地方整備局河川計画課内

(意見提出様式)

「城原川ダム事業の検証に係る検討に関する意見募集」事務局 宛

城原川ダム事業の検証に係る検討報告書（素案）に対する意見募集について